

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 4 月 3 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091500019
法人名	有限会社 ふれあい
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	福岡県大牟田市大字田隈 7 6 6 番地 5 〒837-0916 (電話) 0944-41-8210

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年4月2日	評価確定日	平成19年4月20日

## 【情報提供票より】(平成19年 3月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 · 平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人 常勤	2 人 非常勤	6 人 常勤換算 6.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円) 無			
保証金の有無 (一時金を含む)	有 ( 円) 無	有の場合 償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり		800 円程度		

### (4) 利用者の概要 ( 3 月 20 日現在)

登録人数	9 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護 1	3 名	要介護 2			2 名
要介護 3	3 名	要介護 4			名
要介護 5	名				
要支援 1	名	要支援 2			1 名
年齢	平均 86 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 幸親会 有明病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

以前は他法人が運営していたが、諸事情で現行法人が引継いだ経緯を持つホームである。ホームは、病院を改築しており、病棟の雰囲気は残っているものの、居室の入口に入居者の好みの暖簾や木製ネームプレートを下げ、季節の生花を飾るなど、家庭的雰囲気を出す努力をされ、また浴室を改造するなど、入居者が安全で、かつ、居心地のよい空間づくりへ取り組んでいる。月1回のミーティング時には、外部から講師を招き、さまざまな視点から勉強会を行い、理念を全職員で再度協議するなど、職員が一丸となって質の向上へ取り組んでいる。高齢者率が高い地域であり、独居高齢者宅の見守り訪問など、地域に根ざした取組みを模索されており、町内会や民生委員との連携のもとに継続的に取り組んでほしい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部 4)</b> 現行法人として、今回が初めての外部評価の実施である。今後、外部評価の結果を全職員や家族、運営推進会議の際などに広く周知し、改善に取り組んでほしい。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部 4)</b> 評価実施にあたり、ミーティング時に今の状況をどう改善していくかについて協議を行うなど、職員を交えた取組みがあった。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4、5、6)</b> 民生委員、町内会長、公民館館長、包括支援センター職員、家族代表の出席のもと、運営推進会議を実施している。運営推進会議において、地域との関係づくりについてホームから提案を行って話し合わせ、地域行事に参加したり、ホーム行事に地域の方が参加するなどの取組みがある。
重点項目	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部8、9)</b> 家族の訪問時の声かけや家族会の際に写真を見ていただきながらの状況説明と家族の意見の聴取に努めているが、家族からの本音の意見はなかなか出ない状況である。今後、家族会の開催時を利用したアンケートの実施等、家族の意見を汲み上げるための方法を検討してほしい。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部 3)</b> 地域行事への参加、日常の買物や散歩、ホーム行事への地域の人々の参加など、地域との交流への取組みがある。町内会や民生委員との連携のもと、独居高齢者宅への見守り訪問等、今取組まれていることや今後取組もうとされていることに対して、継続的に向上させてほしい。

## 2. 調査報告(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前より理念はあるものの、全職員で協議を行って再度理念を作り上げている。また、今までの理念は社訓として活かすなどの取組みもある。		地域密着型サービスとしての視点を取り入れて、さらに職員間で共有するための協議等を行うなど、再度理念の作成に取り組んでほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の意志の尊重を重点に職員に話しを行い、その時々におけるケア内容について理念にもとづいた話しを行うなど、理念の浸透と共有に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加、日常の買物や散歩、ホーム行事への地域の人々の参加など、地域の人々との交流への取組みがある。		町内会や民生委員との連携のもとに、独居高齢者宅への見守り訪問など、今取組まれていることやこれから取組もうとされていることに対して継続して取組んでほしい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が現行法人としての初めての外部評価の実施である。毎月のミーティング時に今の状況をどう改善していくかについて協議するなどの取組みがある。この過程で、浴室を安全に使いやすくするために改築するなどの成果が上がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員,町内会長,公民館館長,地域包括支援センターの職員等の出席のもと,運営推進会議の定期的な開催がある。地域との関係づくりについての提案を行い,地域行事への参加などの取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当窓口に出向き,意見を言ったり,アドバイスを受けるなど,サービスの質の向上への取組みがある。また,ホーム行事案内や運営推進会議議事録の提出等を通して行政との連携を図る取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度を使用した事例や対象者がおらず,職員や家族等への説明や勉強会等への取組みはこれからの状況である。		全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めることができる取組みや,必要な時に確実に利用できるように,制度の説明及び相談機関の紹介など,家族への繰返し,かつ,積極的な対応を実施してほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や家族会の開催時に,写真を閲覧していただきながらの状況説明や預り金の説明等を行っている。また,ホーム便りを3か月に1回は作成した上での報告やその都度の電話での働きかけなどが行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時の声かけや家族会の開催時を利用した意見聴取などが行われているが,家族からの本音の意見はなかなか出難い状況である。		家族会の開催を利用したアンケートの実施など,家族の意見をくみ上げるための方法を検討してほしい。
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のストレス軽減のために連続した休暇が取れるように配慮したり,管理者や主任がフォローするなど,職員の離職を防ぐ工夫と馴染みの関係性持続への取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別等による制限は行われていない。また、職員が勤めて楽しいと思う職場づくりを意識しており、連続した休暇の取得や特技、前職の経験などを活用することができるような配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	さまざまな場面を通じた意見交換や研修を通じての取り組みはみられるが、広く障がい者問題や差別の問題など、認知症高齢者と関わる職員の資質として求められる人権意識の醸成を意識した研修や勉強会等への取り組みはない。		介護職員の基本的資質でもある人権意識の喚起のために、行政等で行われる講話への参加を始め、さまざまな機会を利用してアプローチを行ってほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の事業所での勉強会への取り組みや行政や事業者協議会の主催研修の研修案内の提示など、研修参加への機会の確保と研修の参加実績がある。外部研修に関しては、報告会と報告書の閲覧による全職員への周知の体制がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの事業所との連携のもと、職員を3日間ずつ交替で見学実習に派遣するなど、サービスの質の向上への取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者は、従前の事業所から入所していた入居者がほとんどであり、既に馴染みの関係ができあがっている状態である。事業所として、独居高齢者宅への訪問や日常の中で気兼ねなく立ち寄ってもらえる関係づくりへ取り組んでいこうとしている。		独居高齢者宅への訪問による馴染みの関係づくりへの働きかけなど、グループホームが地域の拠点としての日常的な地域との関わりの中で、馴染みの関係構築に取り組んでほしい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の自宅の畑へ入居者をお連れし、高菜の収穫の仕方から高菜漬けの漬け方を指導していただくなど、入居者本人から学ぼうとする取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での、担当者が把握した内容をメモとしてとっているが、全職員間の情報共有という面での記録整理はこれからの課題である。		職員間の情報の共有化が図られなければ質の担保は困難であることを踏まえていただき、担当者の気づきとしてのメモの内容を、現在取入れつつある大牟田方式のツールを使った記録充実や情報の共有化を推進してほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の内容は、ケアする立場から検討されたケアのための介護プランの傾向がみられ、入居者本意の視点に立った入居者との具体的なかわり方が記された介護計画にまでは至っていない。		いつ、どういう時にどういう関わりを行うのかなど、入居者本位の視点に立ち、さらに詳細で具体化した内容の介護計画となるように努めてほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	管理者や家族、計画作成担当者間での担当者 会議が開催されており、担当者会議にて見直し がされている。		担当者の気づきを上手く取りまとめ、チーム として介護計画の内容の定期的及び随時の見 直しを行ってほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	独居高齢者宅への訪問を機会に、日常的な関 わりの中で自然とホームに訪問していただ くような関係づくりに取り組んでいる。入居者の 入院時は、積極的に顔を出し、ホームとの関係 性の継続に努め、早い段階からホームと医療機 関で協議し、早期退院に努めるなどの取組みが ある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホームとしてのかかりつけ医があり、1週間 に1回の往診がある。以前からのかかりつけ 医への受診希望に対しては、家族対応にてお願 いするなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する家族等との話し合いは行わ れていないが、重度化する可能性のある入居者 の家族と今後の方針について協議を行い、共有 している。		実際に検討された方法をモデルとして、他の 入居者に対してもホームとしての体制作りに 取り組んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個人 情報の取り扱いをしていない	入居者に対して、ゆっくりと丁寧な声かけや 同じ視線での会話、入居者に対して感謝の気持 ちの表現など、入居者を尊重した対応が見られ た。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	入居者のADLにとらわれるのではなく、入居 者の意欲を尊重した必要最小限での支援がみ られた。食事の準備や食事時間の長さ、食後の 過ごし方、入居者の排泄に対する訴えなど、あ らゆる面において入居者のペースを尊重した 対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員と入居者は一緒に食事を取り、和やかな 雰囲気であった。入居者におかずやご飯、お茶 のつぎ分け、台拭きや下膳、後片付けなど一連 の流れの中で役割分担ができており、職員は役 割を尊重した上での支援がみられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入居者の今までの生活パターンを重視し、午 後からの入浴実施とし、夜間入浴希望者には夕 方からの入浴を実施するなど、入居者の希望や タイミングに沿った入浴支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	掃除、洗濯物干しやタタミ、食事準備や後片 付け、台拭き、日常の買物、散歩など、入居者 の特徴をよく観察した上での、役割や気晴らしに 対する支援がある。		入居者との日常的な関わりで得られた情報 をさらに職員間で共有して、入居者一人ひとり に合わせた役割や楽しみごと等の支援に取組 んでほしい。
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常生活での買物や散歩、その時々 の外出や計画立てた外出や外食など、積極的に戸外に外 出する取組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に鍵は開錠されており、入居者の様 子を良く観察した上で散歩に付き添ったり、声 かけを行うなどの対応がある。日頃から職員 に対して鍵をかけることの入居者へ与える弊 害について話しをしており、職員の理解の浸透 がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に1回、消防署と入居者が関わった避難訓 練を実施し、その他にもホームのみでの消火訓 練や非常通報訓練を行うなどの取組みがあ る。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の食事摂取量を把握し、水分摂取への声 かけ、体重の増減や体調の変化の把握によっ て栄養状態の把握や水分確保に努めている。		栄養バランスやカロリー等について定期的 に栄養士の方にチェックしていただいたもの を医療機関との連携の必要性からもホームと して把握してほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの床の間に季節の花が飾られ、植木 鉢が飾られたり、居室の入口には入居者一人ひ とりが選んだ暖簾を下げ、自然採光を取入れる などの工夫があり、窓の開閉による温度調整な どの配慮がある。訪問当日もホーム内を流れ る風が心地よく、ゆったりと過ごすことができ た。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	家族の希望によって居室内に畳を敷くなど の対応があり、居室には仏壇や位牌、写真、箆笥 など、入居者にとって馴染みの物が持ち込まれ ており、安心して過ごすための工夫や働きかけ が見られた。		居室内にまだリノリュームの床もある中で 希望等での対応を検討しており、徐々にでも実 現してほしい。

■は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号